

編集後記

■編集委員 (50 音順)

伊熊健一郎	岩崎昭憲	小澤壯治	北島政樹
北野正剛	清水一雄	徳村弘実	東原英二

内視鏡外科の歴史を振り返ると、体壁破壊を最小にすることで低侵襲化をめざした腹腔鏡下手術や胸腔鏡下手術が1990年代から普及し始めた。さらに最近では、米国の内視鏡外科関連学会において、NOTES (natural orifice transluminal endoscopic surgery: 開口部からの経管的腹腔鏡下手術) が盛んに話題となっている。数年前に学会場でその手技をビデオで見た。内視鏡を経口的に胃内まで挿入し、次に胃壁に穴を開けて腹腔内にまで入れ、虫垂切除術を行っている手技を見たときには、かなり驚いた。NOTESは、胃や結腸、さらには腔から内視鏡を腹腔内に入れて、胆嚢や脾臓、虫垂などを切除しようとする新しい手術概念である。リーダー的存在の有名な外科医が熱っぽく語るの、次世代の手術になる可能性を感じてしまう。現時点では動物を用いた実験的研究がほとんどではあるが、そこには内視鏡外科領域や消化器内視鏡領域の医療者がいっせいに新しい技術開発を進めている力強さがある。一見すると不可能では、あるいは夢物語ではと感じる技術開発の報告があっても、ひょっとすると大化けするかもしれないという期待感が膨らんでくる。欧米では消化器内視鏡担当医は内視鏡外科医とは分業されているが、本邦では消化器系の内視鏡外科医は消化器内視鏡を操作することを日常臨床でこなしているという特殊性がある。もし、ひとたびNOTESが本邦に導入されれば、消化器系の内視鏡外科医はあまり抵抗なくNOTESを自分の技の中に取り入れることが可能であろう。しかし、本当に胃や腸や腔から内視鏡を入れて手術をする価値があるのかという素朴な疑問もわいてくる。腹腔への到達方法で腹壁を破壊するか、胃壁などを破壊するかの違いにすぎないが、技術的な問題、使用機器の問題、安全性の問題、適応疾患の問題など解決すべきことは多くある。学問としては興味深い分野であるが、はたして日常臨床に取り入れることが可能かどうかを常に考える必要がある。

NOTESをめぐるのは研究者のあつと驚く斬新な発想や不可能を可能にする努力と熱意など、われわれが学ぶべき点は多い。腹腔鏡下手術が登場した10数年前と同じような熱狂が再来するのかしばらく成りゆきが楽しみである。日本内視鏡外科学会雑誌にも斬新な発想や不可能を可能にする工夫などが投稿されている。これらの論文を査読するときに研究者の熱意が伝わってくると、こちらはこの仕事を引き受けてよかったと思う。査読者の心を揺り動かす論文が今後とも多数投稿されることを願いたい。

(小澤壯治)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第12巻 第3号) 2007年6月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価2,835円 (本体2,700円+税5%) となります。

2007年 年ぎめ予約購読料: 16,500円 (税込) (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2007, Printed in Japan

発 売: 株医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 藤田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷㈱ ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 ㈱文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●症例報告

急性胆嚢炎合併 ventriculoperitoneal shunt (VPS) 留置患者に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の経験

.....内間恭武・他 京丹後市立弥栄 H 外科
 内ヘルニアを呈した Meckel 憩室に対して腹腔鏡下手術を施行した 1 例 ...大橋浩一郎・他 宝塚市立 H 外科
 リンパ節転移を伴う微小直腸カルチノイド腫瘍に対して腹腔鏡補助下低位前方切除術を行った 1 例

.....新関 亮・他 神戸大学大学院消化器外科
 腹腔鏡下に摘出し得た磁器様胆嚢の 1 例角 泰雄・他 神戸医療セ外科
 腹腔鏡下肝嚢胞開窓術にて走行異常の左肝管を切断し再手術を要した 1 例

.....迫田雅彦・他 鹿児島大学医学部消化器外科学
 魚骨の胃穿通に対して腹腔鏡下異物除去術を施行した 1 例永井健一 市立吹田市民 H 外科
 緊急腹腔鏡にて診断・治療した虫垂の癒着による絞扼性イレウスの 1 例...及川将弘 佐世保市立総合 H 外科
 左側胆嚢に対し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した 1 例藤田恒憲 神戸大消化器外科
 早期腹腔鏡下胆嚢摘出術が有効であった急性壊疽性無石胆嚢炎の 1 例飯田 豊 岐阜赤十字 H 外科
 腹腔鏡下に摘出し得た腹腔内異物の 1 例—本邦報告 32 例の検討とともに藤原立樹 草加市立 H 外科
 (そのほか、数編を掲載予定)